

藺牟田池環境保全グリーンインフラアクションプラン
(行動計画)

令和7年3月
令和8年2月改定

薩摩川内市

目次

第1章 行動計画の策定にあたって	1
第1節 行動計画の位置付け	1
第2節 計画期間	1
第2章 施策展開	1
第1節 施策の方針・体系	1
1 施策の方針	1
2 施策の体系	1
第2節 施策展開	2
1 保全・再生	2
2 ワイズユース	3
3 人材確保	4
4 資金調達	4
第3節 K P I	5
1 泥炭形成植物群落の面積	5
2 農業用水閉鎖期（10月～6月）の藪牟田池の水位	5
3 外来魚回収ボックスによる回収数	5
4 自然観察会・自然体験会の実施回数	5
5 生態系保存資料施設アクアタイムの入館者数	5
6 P R動画視聴数	6
7 ガイド・インストラクター育成数	6
8 （仮称）藪牟田池ネイチャー・ワイズユース倶楽部会員数	6
9 藪牟田池県立自然公園利用者数	6
第4節 年度別事業内容（令和8年度から令和10年度）	7

第1章 行動計画の策定にあたって

第1節 行動計画の位置付け

蘭牟田池環境保全グリーンインフラアクションプラン（行動計画）（以下「行動計画」という。）は、「蘭牟田池環境保全基本計画（以下「基本計画」という。）」の下部計画に位置付け、ワイズユース（賢明な利用）（以下「ワイズユース」という。）の推進により、環境保全活動を担う人材の確保と資金調達を行い、蘭牟田池の自然環境をラムサール条約登録時点の環境に再生するための施策を推進する。

第2節 計画期間

行動計画の計画期間は、令和7年度を初年度として令和11年度までの5年間とする。

なお、内容については必要に応じて見直しを行うものとする。

第2章 施策展開

第1節 施策の方針・体系

1 施策の方針

行動計画の推進にあたっては、グリーンインフラを導入した基本計画の実現を目指し、蘭牟田池の自然環境の「保全・再生」を図りながら、それらの環境資源の「ワイズユースによる「人材確保」と「資金調達」を実現する4つの施策展開を相互に連携させ取り組むこととする。

2 施策の体系

	施策展開		具体的な取組
1	保全・再生	⇒	(1) 生態系保全再生事業 (2) 外来種駆除事業 (3) ビオトープ拡張事業 (4) アクアタイム拠点化事業 (5) 生態系調査の実施 (6) 在来種の保全 (7) 禁止行為を含む保全と再生及び賢明な活用に関する条例の制定 (8) 支援制度の整備
2	ワイズユース	⇒	(1) 新たな名所づくり事業 (2) アクティビティ活用事業 (3) ガイド・インストラクター育成事業 (4) 情報発信事業 (5) 食事を提供する場所・買物をする場所の確保 (6) 既存施設の利活用 (7) 交通・アクセス改善事業
3	人材確保	⇒	・人材確保
4	資金調達	⇒	・資金調達

第2節 施策展開

1 保全・再生

(1) 生態系保全再生事業

泥炭形成植物群落の面積が減少する要因である「樹木等による陸地化の拡大」の防止と藪牟田池の水位調整を図り、適切な植生遷移のための対策を行う。

- ヤナギ伐採（陸地化の拡大防止）
- 泥炭形成植物群落の正確な面積調査の実施と適切な維持管理【調査】
- 営農と生態系を共存させる水位調整

(2) 外来種駆除事業

在来種を保護するため外来種駆除対策を行う。

- 積極的な外来魚の駆除
- 在来種に影響を与える外来種（アカミミガメ、ヌマスギ等の外来魚以外）の駆除

(3) ビオトープ拡張事業

周辺の遊休地を活用し、渇水の影響を受けないベッコウトンボの生息場所の確保と藪牟田池の自然を身近に観察できる環境学習の場の充実を図るため、キャンプ場整備と併せ、既存ビオトープを拡張する。

- ビオトープ拡張

(4) アクアタイム拠点化事業

祁答院生態系保存資料施設資料館アクアタイムのミュージアム機能を見直したりリニューアルの実施及び、基本計画及びアクションプランを推進していくための官民一体となった活動の拠点としての機能を整備する。

- アクアタイムのリニューアル（施設名称の検討含む）
- アクアタイムのビジターセンター化【調査】
- アクアタイムを中心とした藪牟田池全体の資料館化【調査】
- 藪牟田池の自然と触れ合う自然体験プログラムのメニュー化
- 地域連携及び各種事業企画を行う指定管理業務の整備【調査】

(5) 生態系調査の実施

ラムサール条約登録時点との生態系の変化を把握し、藪牟田池の保全と適正な利用のために活用する。

- 鳥類・魚介類調査
- 昆虫類調査及びビオトープのモニタリング
- 植物調査

(6) 在来種の保全

絶滅した在来植物や在来淡水魚等について生態系への影響を考慮した上で、植樹や放流等による増殖を行う。

- ジュンサイの再生【調査】
- オイカワ、カワムツ、メダカ、ドンコ等の在来淡水魚の放流【調査】

(7) 禁止行為を含む保全と再生及び賢明な活用に関する条例の制定

ドローン空撮等の法令等に規制のない行為に対する規制の根拠となる条例を制定する。

- 条例の制定

(8) 支援制度の整備

民有地における外来種対策、ヤナギの伐採及び竹林等の管理等の藪牟田池の自然環境の保全を推進する上で必要な支援制度を整備する。

- 支援制度の整備

2 ワイズユース

(1) 新たな名所づくり事業

藪牟田池の新たな魅力ある名所の整備、発掘及び情報発信を行い、藪牟田池への集客の増加を図る。

- アサギマダラの飛来を促す環境の整備
- 桜の植樹
- 外輪山の名所発掘（巨石、巨木等）【調査】

(2) アクティビティ活用事業

民間活力による外輪山登山、キャンプ等藪牟田池の魅力的なアクティビティを充実させ、アウトドアアクティビティ人口の増加を図る。

- アウトドア産業等の誘致【調査】
- お手軽アウトドアメニューの展開（低山ハイク、常設テント等）
- キャンプ場の整備（使用料の検討含む）【調査】
- （仮称）藪牟田池ネイチャー・ワイズユース倶楽部の設立

(3) ガイド・インストラクター育成事業

（仮称）藪牟田池ネイチャー・ワイズユース倶楽部のメンバー等からガイド及び安全管理等の教育を含めたインストラクターを育成し、更なる会員の増加を図る。

- ガイド・インストラクターの育成
- 安全対策の整備（ライフジャケット、ヘルメット等）

(4) 情報発信事業

藪牟田池の四季の自然景観や貴重な動植物に関するPR動画を作成し、情報発信（SNS等）を行う。

- PR動画の配信

(5) 食事を提供する場所・買物をする場所の確保

藪牟田池での滞在時間が短い原因の一つである、食事を提供する場所や買物をする場所が無いため、民間活力による誘致に努め、藪牟田池への集客の増加を図る。

- 食事を提供する場所の誘致【調査】
- 買物をする場所の誘致【調査】
- 新たなイベントの誘致【調査】

(6) 既存遊休施設の利活用

旧いこいの村いむた池の今後の方針を検討（解体設計）【調査】

(7) 交通・アクセス改善事業

藪牟田池でのイベント開催時において、環境にやさしい周遊交通等の確保を図る。

●駐車場不足対策、周遊交通等確保対策

3 人材確保

・ 人材確保

アクションプランに賛同頂ける個人・団体と連携し、民間主導による「保全・再生」と「ワイズユース」を促進するため、必要な人材の確保に努める。

- 行政と地域住民が連携して、アクションプランを検討、実行
- アクションプランを総括的に推進する市組織体制を整備
- （仮称）藪牟田池ネイチャー・ワイズユース倶楽部をアクションプランの資金調達の受け皿となるNPO法人等による民間推進体制に移行【調査】

4 資金調達

・ 資金調達

ワイズユースに関する様々な資金調達手段を活用し、藪牟田池の「保全・再生」及び「人材確保」に必要な資金の調達に努める。

- ふるさと納税の活用
- 会員制による会費徴収【調査】
- クラウドファンディングによる調達【調査】
- ナショナルトラスト方式の活用【調査】
- グリーンボンドの活用【調査】

第3節 KPI

1 泥炭形成植物群落の面積

減少傾向を増加傾向に反転（令和11年度目標）

※ 長期的には、ラムサール条約登録時点（平成18年度）の水準に再生する。

【泥炭形成植物群落面積の推移（生態系調査）】（単位：㎡）

平成18年度	平成28年度	平成31年度	令和6年度
143,890	128,570	111,780	109,103

2 農業用水閉鎖期（10月～6月）の藪牟田池の水位

農業用水の確保を十分考慮したうえで生態系の保全・再生に適切な水位54cmを目指す。

【平成27年5月以降の水位の状況】（単位：cm）

区分	水位	備考
平均推移	85	
最高水位	171	令和2年7月6日
最低水位	27	平成30年9月9日

3 外来魚回収ボックスによる回収数

3千匹（令和11年度目標）

【外来魚回収ボックスの回収実績】（単位：匹）

令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
7,024	16,416	18,530	27,506	4,572

※ 積極的な外来魚駆除を行った場合、外来魚回収ボックスの回収数は減少する。

4 自然観察会・自然体験会の実施回数

年間10回以上（令和11年度目標）

（単位：回）

令和7年度
3

※ 令和7年度実施 ヒメボタル自然観察会、アサギマダラ自然観察会、外来魚駆除釣り大会

5 祁答院生態系保存資料施設資料館アクアタイムの入館者数

1万5千人以上（令和11年度目標）

【アクアタイム入館者実績】（単位：人）

令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
7,043	6,725	8,987	8,062	6,834

6 PR動画視聴数

5万回以上（令和11年度目標）

7 ガイド・インストラクター育成数

5人以上（令和11年度目標）

8 （仮称）藺牟田池ネイチャー・ワイズユース倶楽部会員数

30人以上（令和11年度目標）

9 藺牟田池県立自然公園利用者数

20万人（令和11年度目標）

【県立自然公園利用者数の推移（環境省自然公園利用者数調）】（単位：千人）

令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
162	165	161	175	146

第4節 年度別事業内容（令和8年度から令和10年度）

※毎年度事業内容について見直し、各年度の取組状況に反映する。

区分	具体的な取組		R 8	R 9	R 1 0
1 保 全 ・ 再 生	(1)生態系保全再生事業	ヤナギ伐採（陸地化の拡大防止）	実施	経過 観察	経過 観察
		泥炭形成植物群落の正確な面積調査の実施と適切な維持管理	調査	調査	調査
		営農と生態系を共存させる水位調整	実施	実施	実施
	(2)外来種駆除事業	積極的な外来魚の駆除	実施	実施	実施
		在来種に影響を与える外来種（アカミミガメ、ヌマスギ等の外来魚以外）の駆除	実施	経過 観察	経過 観察
	(3)ビオトープ拡張事業		調査	調査	実施
	(4)アクアタイム拠点化事業	アクアタイムのリニューアル（施設名称の変更含む）	設計	改修	改修
		アクアタイムのビジターセンター化	調査	調査	調査
		アクアタイムを中心とした藪牟田池全体の資料館化	調査	調査	調査
		藪牟田池の自然と触れ合う自然体験プログラムのメニュー化	実施	実施	実施
		地域連携及び各種事業企画を行う指定管理業務の整備	調査	調査	調査
(5)生態系調査の実施	鳥類・魚介類調査		実施		
	昆虫類調査及びビオトープモニタリング			実施	
	植物調査（※ R 1 1 実施）			※	
(6)在来種の保全	ジュンサイの再生	経過 観察	経過 観察	経過 観察	
	オイカワ、カワムツ、メダカ、ドンコ等の在来淡水魚の放流	調査	調査	調査	
(7)禁止行為を含む保全と再生及び賢明な活用に関する条例の制定		制定	運用	運用	
(8)支援制度の整備		調査	調査	実施	
2 ワ イ ズ ユ ー ス	(1)新たな名所づくり事業	アサギマダラの飛来を促す環境の整備	調査	調査	実施
		桜の植樹	実施		
		外輪山の名所発掘（巨石、巨木等）	調査	調査	調査
	(2)アクティビティ活用事業	アウトドア産業等の誘致	調査	調査	調査
		お手軽アウトドアメニューの展開（低山ハイク、常設テント等）	実施	実施	調査
		キャンプ場の整備（使用料改定見直し含む）	調査	調査	調査
		（仮称）藪牟田池ネイチャー・ワイズユース倶楽部の設立	調査	調査	実施
	(3)ガイド・インストラクター育成事業	ガイド・インストラクターの育成	実施	実施	実施
		安全対策の整備（ライフジャケット、ヘルメット等）	調査	調査	実施
	(4)情報発信事業	PR動画の配信	配信	配信	配信
	(5)食事を提供する場所・買物をする場所の確保	食事を提供する場所の誘致	調査	調査	調査
買物をする場所の誘致		調査	調査	調査	
新たなイベントの誘致		調査	調査	調査	
(6)既存遊休施設の利活用	旧いこいの村いむた池の今後の方針を検討（解体設計）	調査	調査	調査	
(7)交通・アクセス改善事業	駐車場不足解消、周遊交通等確保対策	実施	実施	実施	
3 人 才 確 保	・人材確保	行政と地域住民が連携して、アクションプランを検討、実行	実施	実施	実施
		アクションプランを総括的に推進する市組織体制を整備	実施	実施	運用
		（仮称）藪牟田池ネイチャー・ワイズユース倶楽部をアクションプランの資金調達の受け皿となるNPO法人等による民間推進体制に移行	調査	調査	調査
4 資 金 調 達	・資金調達	ふるさと納税の活用	実施	実施	実施
		会員制による会費徴収	調査	調査	調査
		クラウドファンディングによる調達	調査	調査	調査
		ナショナルトラスト方式の活用	調査	調査	調査
		グリーンボンドの活用	調査	調査	調査